

# 硝子の土塔の殺人 知念実希人作

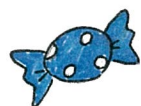
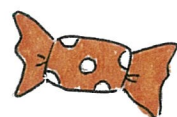
山奥の特殊な所に立てられた食館「硝子館」。  
食館の主人によりそこに招かれた個性的な面々。  
彼により発表がある日、その食館の主人が殺された。  
しかも部屋は密室。  
誰もが「見えぬ殺人犯」の存在に恐怖を募らせて  
いく中、外部への連絡も全て途切れてしまう。  
「クローズドサークル」となった硝子館で、さらに  
殺人は続いていく...

これは「初めの事件の犯人視点」で物語は進んで  
いきますが、事件が解決されて冬休み、じゃないんです！  
裏ではもっと大きなフィナーレへと物語が進行して  
いるんです！

二重三重云々していく結末を、みなさんの目で確かめてください

※注：この物語はどんなに結末を知りたいでも、  
最初から飛ばさずに読むことを強くおすすめします。

J3-4  
R.L  
R.T



## 「スクールカースト 復讐デイズ」



正夢の転校生  
柴田一成 (宝島社)

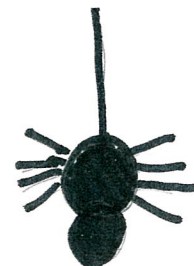
夢で見たことが現実で起こるー。

ある転校生「咲良」がやってきてから、主人公の「颯太」  
はこの謎の現象に翻弄されるようになる。

咲良は転校早々、人をつき放すような態度をとったことで  
いじめに遭いはじめる。その夢を見た颯太はいじめを  
阻止しようとしたが、空回り。かつての親友「優也」に相談  
したがい。

咲良の態度の本当の意味。3人の関係性。衝撃のラストに  
思わず息を吞む一冊です。 J3-2 K.T.

# のほ本



『ぼく』

作：谷川 俊太郎

絵：合田 里美

この絵本は「ぼく」が周囲に語らなかつた声、気持ちを、  
わからないながらも聞こうとし、知ろうとする、

「ぼく」のことを考える絵本です。「ぼく」がなぜ死という  
選択をしてしまったのか。どうしたら生きることができたのか。  
その問いは「自分自身」がどうしたいかという問いにも  
つながります。この本を通じて、どうしたらすべての  
「ぼく」がこの世界で生きていくことができるのかを  
感じとっていただけたら嬉しいです。 J3-1 K.O C.K



## どうか、彼女が 死にますように

作者 喜友名ト

～あらすじ～

人気者を演じていた大学生の夏希はある日、  
常に無表情で笑わないうる女に出会う。  
夏希は彼女に惹かれ、彼女を笑わせようと努  
め、矢張り笑った。彼女は笑うと死んで  
しまうことも。夏希は彼女を笑わせるこ  
とができるのか。

## 『これは僕が彼女を 殺すまでの物語』

J3-5 N.H, K.Y



## 「くちぶえ 番長」

作 重松 清

～あらすじ～

小学四年生のツヨシのクラスに、  
一輪車とくちぶえが上手なマコトが  
やってくる。転校早々「私、この学校の  
番長になる!」と宣言し、誰よりも、優しく、  
強く、友だち思いのマコトだが、マコト  
には悲しい過去が...

ぜひ読んでみてください! J3-3 A.K.N.Y